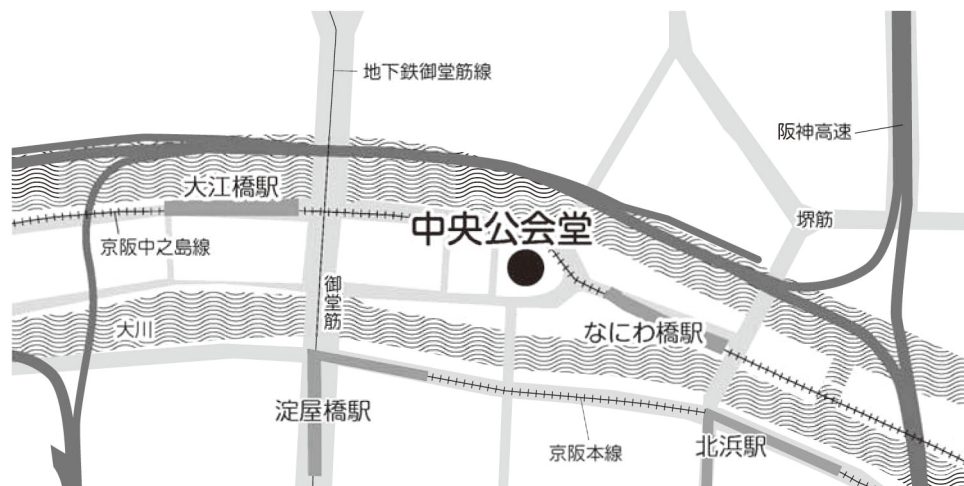


会場アクセス



〈大阪中央公会堂〉

電車をご利用の場合

JR 新大阪・大阪駅から

地下鉄御堂筋線／京阪電鉄「淀屋橋」
駅下車
〈1〉番出口から徒歩約5分

地下鉄堺筋線／京阪電鉄「北浜」駅下車
〈22〉号出口から徒歩約6分
京阪電鉄中之島線「なにわ橋」駅下車
〈1〉番出口から徒歩約1分

バスをご利用の場合

市バス「淀屋橋（市役所前）」下車徒歩約5分
〔大阪駅 88 系〕

〈大阪電気通信大学・ 寝屋川キャンパス〉

京阪電鉄「寝屋川市」駅下車
徒歩約10分

〈寝屋川市立市民会館〉

京阪電鉄「寝屋川市」駅下車
徒歩約15分



第53回 全国保育問題研究集会

大阪集会

ともに語ろう 子どもたちの未来
ともにつくろう 明るいあした

－伝えたい 平和・人とのつながり・生きるすばらしさ－



日時 2014年 6月6日(金)・7日(土)・8日(日)

場所 1日目 大阪市中央公会堂
〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-27

2・3日目 大阪電気通信大学(寝屋川キャンパス)
〒572-8530 寝屋川市初町18-8

寝屋川市立市民会館
(2日目 認識と表現 音楽・3日目 閉会集会)
〒572-0848 寝屋川市秦町41-1

日程

6日(金) 大阪市中央公会堂

12:00	13:00	14:30	14:45	16:15	16:30	17:00	17:50
受付	開会集会・基調提案	休憩	記念講演	休憩	特別報告	分科会・打ち合わせ	

7日(土) 大阪電気通信大学・寝屋川市立市民会館(認識と表現 音楽のみ)

8:30	9:15	12:00	13:00	16:30	17:00	18:30
受付	分科会	昼食	分科会	移動	特別講座	

8日(日) 大阪電気通信大学・寝屋川市立市民会館(閉会集会)

9:15	11:15	11:45	12:40
分科会	移動	閉会集会	

主催 全国保育問題研究協議会 第53回全国保育問題研究集会 大阪集会実行委員会
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目2番2-202 ☎06-6763-4381 FAX06-6763-3593

第53回 全国保育問題研究集会歓迎のことば

第53回全国保育問題研究集会は、2014年6月6、7、8日の日程で、大阪市の中央公会堂、大阪電気通信大学、寝屋川市民会館を会場として開催されます。中央公会堂は1918年に建造された「赤レンガの壁に青銅のドーム屋根」の歴史的建造物です。数多くのコンサートやオペラ、演劇、講演会などが開催され、当時から今まで大阪の文化の発信拠点となっています。ぜひ歴史的建造物の中での開会集会をお楽しみください。2・3日目は、充実した設備の大阪電気通信大学とそこからほど近い寝屋川市民会館で行います。

本集会が行われる2014年は、2015年からの「子ども・子育て支援新制度」実施に向けての非常に重要な1年です。各自治体での計画作成が進み、秋には入所・入園の申し込みが始まります。各地でもさまざまな混乱や不安も多いことと思います。新しい制度の中で、どのようにすべての子どもの最善の利益を護るのか、保護者の就労と生活を支援するのかなど、具体的で切迫した課題が明らかになってくる中での集会です。だからこそ、この集会のもつ意義は非常に大きいと考えています。これまで保問研は、戦争、災害といった幾多の困難の中でも、子どもたちを護り、保護者を支える保育を行ってきました。これまで保問研が長年にわたり大切に積み重ねてきたものに学びながら、新しい制度の中でもゆるぎない保育実践を創造するための研究集会にしたいと思っています。

大阪集会は「学びとつながり」を大切にしたい集会にしたいと考え、準備を進めています。「子どもたちの生活と発達を護る保育を行うには平和でなければならない」という広島、静岡からのメッセージを引き継ぎ、大阪集会は、子ども・おとなの権利を保障する「憲法を護ること」「子どももおとなも生きる喜びを分かち合うこと」を大きなテーマに掲げています。各分科会での提案・学習を中心に、開会集会、特別講座でも多様な学びを用意しています。先の見えない時期だからこそ、学ぶことで見通しが生まれ、多忙からつながりが希薄になっている時だからこそ、「ひとりじゃない」「仲間ががんばっている」と実感してもらえる集いをめざしています。困難な時だからこそ、ぜひ仲間を誘ってご参加ください。必ず、「明日からの元気が出る」集会にします。みなさんのご参加をお待ちしています。

第53回大阪集会実行委員長 長瀬 美子

集会テーマ

ともに語ろう 子どもたちの未来 ともにつくりよう 明るいあした
— 伝えたい 平和・人とのつながり・生きるすばらしさ —

〈サブテーマ〉

- 日本国憲法の理念にもとづき、すべての人々のいのち・くらし・権利を護り、子どもたちの健やかな育ちを保障する保育を実現しよう。
- 保護者・保育者・地域の人たちがつながり合い、子どももおとなも育ちあえる保育の場を創造しよう。
- 保育実践、新制度を含む情勢、そして全国保育問題研究会の研究の蓄積に学びながら、保育実践を深め、保育の質を高めよう。
- 新たな制度下で「大切にしなければならないものは何か」を明らかにし、継承していこう。

開会集会 6月6日(金) 13:00~14:30 大阪市中央公会堂

- * オープニング……………保育者による歌「機関車のうた」「みんなでいこう」「歓喜の歌」など
- * 歓迎あいさつ……………実行委員長 長瀬美子
- * 主催者あいさつ……………全国保育問題研究協議会代表 鈴木牧夫
- * 基調提案……………全国保育問題研究協議会 常任委員会

記念講演 6月6日(金) 14:45~16:15 大阪市中央公会堂

『いのちをみつめて —おしばいとおはなし—』

～ふるえるような怒りの奥底に、すがるような生命の願いがあった～

有馬理恵 (女優・劇団俳優座)

特別報告 6月6日(金) 16:30~17:00 大阪市中央公会堂

「大阪市思想調査裁判の闘い」について

2012年2月、大阪市長は全正規職員に「労使関係に関する職員アンケート調査」を行いました。「組合加入の有無」や「街頭演説への参加の有無」まで回答させ、他の職員の政治・組合活動の告発まで問うといった内容でした。さらに、「正確な回答がなされない場合は処分の対象となりえます」と強要しました。

これは、憲法に定められた思想良心の自由、団結権、プライバシー権などを侵害する「思想調査」です。「処分は困る。だけど…」と働く者の誇りをかけ、59名の職員（内保育士が2/3以上）が裁判に立ち上がりました。「子どもたちや保護者のためにいい保育がしたい」と裁判におかっている原告団の生の声を聞いてください。



閉会集会 6月8日(日) 11:45~12:40 寝屋川市立市民会館

- * 現地実行委員会による民舞……「浪速のまつり」
- * 実行委員会より * 福島からの報告
- * 集会宣言 * 次回開催地 石川からのアピール

参加申し込み (詳細別紙)

参加費……………8000円 (第1次締切日以降 8500円)
申し込み締切日……………第1次締切日 5月9日(金)
最終締切日 5月23日(金)
* 最終締切日以降の申し込みは、参加券が当日引き渡しになります。

分科会案内



6/7 (土)

9:15~16:30

6/8 (日)

9:15~11:15

分科会の検討資料は、季刊「保育問題研究266号」(新読書社)に記載されているものを使用しますので、必ず持参して下さい。当日も販売しますが、数に限りがあります。
事前購入をご希望の場合は、各地の保問研または新読書社までお問い合わせ下さい。(新読書社 FAX: 03-3814-3097)

1 乳児保育

「乳児保育」分科会は長い歴史があり、その時代の必要性に応じて乳児保育のより良いあり方を考えてきました。年齢別クラス担当基準をはじめ、乳児の生活と発達を豊かに保障する保育内容・方法、環境構成などを具体的な実践を通して検討していきます。

昨年、子育て支援3法案が国会を通りましたが、新システムの主張と本質は変わらず、保育の市場化がさらに推し進められようとしています。制度のあり方も含めた、幅広い実り豊かな討論を共にしていきましょう。

●運営委員 菱谷信子(福岡) 横井美保子(東京) 亀谷和史(愛知)
松田千都(京都) 野村朋(大阪) 友廣万貴子(岡山) 伊藤洋子(愛知)
中川伸子(広島) 西林正美(兵庫) 恩田えり(北埼玉)

2 集団づくり

いま、人権と民主主義が問われています。子どもたちを民主的な主権者として人間らしく育ていくために、発達年齢にふさわしく豊かな集団生活を保障していきたいと思えます。自治的、民主的集団をめざし、子どもたちの現実や集団の現状をふまえて、実践の道筋と手立てをどう考えたらよいか、地域や家庭をも視野に含めた実践をどうつくりだすのか、また、保育者集団のあり方など、実践をもとに深めていきましょう。

●運営委員 大元千種(佐賀) 木村和子(愛知) 池田かよ子(東京)
山田米子(大阪) 脇信明(大分) 中島常安(北海道) 山本理絵(愛知)
長瀬美子(大阪) 古庄範子(熊本) 谷口敦子(京都) 丹野広子(仙台)

3 あそび

保育界では、あそびの重要性が再び主張されています。そして、あそびの実践も活発に報告されています。あらためて子どもは、あそびのなかでどのような自分を育てていくのか、仲間とどのように育ちあうのか、そのために保育者はどのようにあそびを組織し、発展させていったらよいかこうした検討がいま私たちに求められています。それはあそびの内容によっても、年齢によっても異なります。各地の実践をもとに「地域の自分の園のこどもだったら」と思いを描きながら検討しましょう。

●運営委員 木都老克彦(神奈川) 岡村由紀子(静岡) 河崎道夫(三重)
勅使千鶴(愛知) 川内良子(福岡) 宮城千鶴(大阪) 三浦和恵(仙台)
加用文男(京都) 田中浩司(東京)

4-a 身体づくり 運動

「身体づくり」は単に体を鍛えることではありません。「身体」とは「中身のある体」であり、「身体づくり」とは、人格のありようを含めてのからだの形成をしていくことです。この分科会は、運動を通じて、どのような身体を、どのように育てていくのかを、子どもの最善の利益という視点に立って明らかにしていくことです。今なぜ、その運動なのか、その教材を通してどのような認識や感情、価値観を育てるのかなど、乳幼児期の発達に即して丁寧に考えていきましょう。

●運営委員 塩田桃子(大阪) 横井喜彦(愛知) 上月智晴(京都)
佐々木雄大(東京) 福井英二(福岡)

4-b 身体づくり 食

「食」は生命を守り維持し、成長を保障する基本です。健康な身体は発達の基礎です。昨年の集會に引き続き学童期まで見通した「食」を考えましょう。

また父母や子どもたちの現状を支える新たな視点で実践を語り合しましょう。各地の給食センタ一化・委託化についても交流し、健康な子どもを育てるために何が必要な力なのかを共に考え合しましょう。

●運営委員 大下二三子(滋賀) 小西律子(兵庫) 長谷部幸子(北海道)
三上かおる(大阪) 王野宮子(京都) 加藤雅美(愛知)

5-d 認識と表現 科学

「科学」分科会は長年の成果を保問研シリーズ「確かな感性と認識を育てる保育」として出版しました。今日の社会にあたって「科学的なものの考え方」を身につけずには生きていけません。子どもたちに「自然科学」への関心を持たせるには、どんな環境と方法が乳幼児期に必要なのかそして「科学に強い保育者の養成」についてさらに議論を重ねましょう。原発事故による汚染が拡散する中で、国際的に加害責任が問われています。子どもを守り生命を育むために、今何をしなければならぬのか、考え合ひましょう。

●運営委員 清原みさ子(愛知) 富田昌平(三重) 藤井修(京都)

6 保育計画

保育計画作成は、保育全般にかかわり、なおかつ基底となる作業といえるでしょう。保育実践の根底にある子ども像、保育目標を目の前の子どもたちの姿と家庭・地域の状況をふまえて検討し、職員間・保護者も含めて合意形成する必要があります。

「保育所保育指針」告示化され3年経過し、長年保育計画について議論を積み上げてきたこの分科会で、計画作成だけでなく活用の仕方、職員集団づくり、保育記録、自己評価、保育記録など幅広い議論をしていきましょう。

●運営委員 渡邊保博(静岡) 林若子(南埼玉) 合田史宣(愛媛)
早瀬真喜子(大阪) 荒城育子(京都) 吾孫子幹(鹿児島) 入江慶太(岡山)

7 保育時間と 保育内容

子育てを始めた父母の労働や生活の大変さと多様さのなかで、保育時間は長くなり、日曜日や祝日も保育を実施する園が増えてきています。本分科会では、父母のそうした労働実態、生活実態と、そこで一緒に暮らし、育つ子どものことを考え合い、努力したこと、工夫したこと、悩んだことなどを出し合って学んできました。それは、保育園とは何か、という話し合いでもありました。

そのような状況を見つめながら、どのような日課や保育内容を作っていたらよいか、子どもはもちろん、父母とどのようにわかり合っていたらよいか、保育者の労働条件をどうしていたらよいかなど、たくさんある課題をみんなで考えたいと思います。

●運営委員 清水氏子(京都) 清水玲子(東京) 河本ふじ江(愛知) 横井洋子(北海道)

8 保育政策と 保育運動

「子ども・子育て支援法」による新制度の本格実施が迫っている中で、新制度の問題は山積しています。待機児解消を名目に規制緩和が先行して進められている自治体では、金儲けビジネスとしての企業の参入が進んでいます。新制度実施になれば保育時間がバラバラにされるなど、子どもたちの発達保障が危うい状態にされたり、保育制度は福祉からサービス事業になってしまおうと危惧されています。国の「子ども子育て会議」や、各自治体レベルでの「子ども子育て会議」の内容を検証し、新制度の理解を深めながら、各地域の状況や取り組みを交流し、公的保育とは何か、私たちが今後どのような保育・子育ての政策を掲げ運動を進めるのか、子どもの最善の利益を考えた保育制度をつくるために、一緒に考え、議論していきたいと思ひます。

●運営委員 近藤進(京都) 中村強士(愛知) 大宮勇雄(東京) 杉山隆一(大阪)
森山幸朗(鳥根)

9 障害児保育

障がいを持った子どもなど、保育において特別な支援を必要とする子どもたちへの関心が高まっています。支援が必要な子どもへの保育に取組むことは、クラスの子ども全体の保育を見直し、職員集団や保護者との協力連携関係を構築していくことにつながります。それは、どの子どもも発達し保育に参加することを保障するインクルーシブな保育を実現することであり、保育の原点を再発見することです。これまでの障害児保育の優れた実践をもとに蓄積された理論を土台にししながら、この時代に必要実践を創造していきましょう。

●運営委員 田中良三(愛知) 野本千明(滋賀) 浜谷直人(東京) 河合隆平(石川)
落合操(愛媛) 杉山弘子(仙台) 上地玲子(岡山) 田中洋(大分)
三山岳(京都)

5-a 認識と表現 文学

これまで提案され、話し合ってきた実践は多岐にわたっています。絵本の読み聞かせ・お話作り・劇あそび・劇づくり・紙芝居などの活動、教材としての絵本の分析、父母・地域とかがわる園文庫のとりくみ、今日の子どもの文化を考えるなど、多様な実践に迫る共通の視点として表現活動をくくって認識を深め、子どもたちの生活をつくること、子どもたちの集団づくりとかがわらせて文学の実践を深めることが認識されています。

●運営委員● 西川由紀子(京都) 田代康子(東京) 山崎由紀子(大阪)
徳永満理(兵庫) 小川絢子(愛知)

5-b 認識と表現 美術

子どもの絵のとらえ方や見方、指導のあり方について古くから保問研の中にも多様な考え方や実践があります。毎年の分科会では、こうした積み重ねを丁寧に認識しあうと同時に、様々な実践の違う点も、結論を急がずじっくり実践の事実を丁寧に話し合う中で相互理解を深めていけたらと思います。そこから見えてくるものを大切にしたいと考えています。

●運営委員● 伊藤正雄(東京) 田中義和(愛知) 脇志津子(京都) 板井理(大阪)
平沼博将(京都)

5-c 認識と表現 音楽

「音楽」は、子どもの育ち、人間形成にどんな役割を果たすのか、「音楽」が人間らしく、子どもたちの自由で伸びやかに楽しく、生きる力になるためには、乳幼児期の音楽教育はどうあったらよいのだろうか。音楽教育では認識とは何であるのか。子ども達の発達を保障する・促す教材を、発達段階にそってどう選択していけばよいかなどを考えていきたいと思ひます。

●運営委員● 山並道枝(熊本) 藤波陽子(栃木) 丸山亜季(群馬) 安藤正彦(京都)
坂手佳子(大阪) 高橋陽子(北埼玉)

10 父母と共につくる 保育内容

人間らしく生きる力を生活の場での保育は、昨今の状況から見ても「父母と共に」を抜きに語れません。毎回、父母・保育者それぞれの立場から、お互いに手をたづさえての思いから出発した様々な実践が報告されています。

父母と保育者との信頼関係をつくる・父母たちの保育参加を広げる・地域に根ざした共同の子育てを進める・父母と保育者が協力して新しい保育を創造するなどが討議されます。

●運営委員● 穴戸健夫(愛知) 細見玲美(京都) 長瀬弥生(大阪)

11 乳幼児期の 平和教育

平和的人間の形成は現代の教育の原点であり、人類的課題といえるものです。乳幼児期から子どもの心の中に平和のとりでを築く平和教育の営みは、平和な将来の社会を保障する重要な条件であり、最も確実な道といえます。平和とは、単に戦争が無い状態だけでなく、戦争を生み出す元となる飢餓、貧困、差別、失業、虐待などの無い、人権が守られている状態を指すものです。保育現場で、生きづらさを抱えている子どもたち、親たちに向き合い日々取り組んでいる、そのことが平和教育につながるものです。愛されているという安心感や自己肯定感を育てることも仲間と話し合う力を培うことも平和の心を育む実践といえます。平和教育は決して「敷居が高い」ものではありません。日常の保育をあらためて平和教育の視点でとらえ直してみることから始めていきましょう。

●運営委員● 小川富士枝(静岡) 石川秀子(広島) 黒川久美(鹿児島)
船越美穂(福岡) 浅野恵美子(沖縄)

12 地域に開かれた 保育活動

保育園・幼稚園の保育が親に信頼され、子どもたちがしっかり育っていることを土台に、地域の子どもたちもしっかり育ってほしいと願ひ、地域開放、体験保育など色々な子育て支援の取組が広がっています。しかし、気になる親子への対応が大きな課題になっています。

親子の背景にある生活の重さや、親の未熟さなど保育園だけで抱えきれない問題も増えています。行政や専門機関との連携、民生児童委員など地域の住民組織との連携を日頃から視野に入れた取組が必要です。事例をもとに交流を深め、子育て支援をする今日的な意義を共に考えましょう。

●運営委員● 水野恵子(東京) 加藤哲雄(愛知) 野々上昭弘(大阪) 望月彰(愛知)
松浦崇(兵庫)

特別講座

6/7(土)

17:00
~18:30

A 保育政策

新制度を考える

大宮勇雄・杉山隆一・中村強士 他(保育政策検討委員会)

B 平和

戦争と原発はつながっている

~ シリア・アフガン・福島からのレポート ~
西谷文和(ジャーナリスト)

C 震災

「3.11 体験者は語る あの日あれから」 津波からどう子どもを守ったか

~ 原発事故後の保育と食 ~
菊地映子(仙台保問研)・相馬久美子(福島さくら保育園)

D シンポジウム

大阪保問研は保護者とともに

コーディネーター 長瀬美子(大阪保問研)

E なかま

「集団づくり」っておもしろい?!

~ 若い人たちへ ~
岡喬子(大阪保問研)

F いのち

「轟音のない青空を返して!」 ~ 沖縄の現状と子ども達 ~
ウィンフィールドひろみ(沖縄保問研)

G しゃべり場

若者が語ろう・若者と語ろう!保問研のしゃべり場
~ みんなの悩み、思いを語り合おう ~
聞き手:河合隆平(石川保問研)

H 美術

子どもの発達と描く活動

新見俊昌(大阪保問研)

I 劇

身ぶり表現と劇づくりを楽しく

~ 困難を乗り越える子どもと大人に ~
山崎由紀子(大阪保問研)

J 音楽

子どもが育つうた ~ 沖縄のわらべうたであそぼう ~
丸山亜季(群馬保問研)

K 食

食べ物を変えると人生変わる

昇幹夫(産婦人科医師)

L 文化

ちよつと一息 上方落語

桂佐ん吉(桂米朝事務所)